

書いては消し、書いては消し、を繰り返す。一向に書き終わらない。文体が気に入らない。

セリフが気に入らない。

物語の始め方が気に入らない。普遍的であってはならないが、とつつきにくくてはいけない。物語の進め方が気に入らない。もつと軽やかでありながら重くなければ。

物語の終わらせ方が気に入らない。キレよく、されどうつすらと後味を残したい。

彼女はもつと理性的だった。恐ろしさを感じるほどだった。

彼女はもつと皮肉的だった。思わず笑ってしまうこともあった。

彼女はもつと破綻的だった。好きなタイプは「私がいなくても変わらない人」と言っていた。

彼女はもつと理不尽だった。手を伸ばせば逃げ、距離をおけば拗ねた。

彼女はもつと愚かだった。彼女から去る時と、結婚報告をした時の口数の多さと言ったら。

彼女はもつと大人だった。春のあたたかな公園での読書を楽しめる子どもはいない。

彼女はもつと綺麗だった。一目惚れではなかったが、外見に確かな魅力を感じていた。

彼女はもつと不幸だった。ストーカー被害に遭っていた為、人間関係をリスクと考えていた。

彼女はもつと幸福だった。少ない友人はみな何かしらの傷を負っている良い人達だった

十日で書き終えてしまった。そんなに早く書き終えていいわけがない。

二十三日で書き終えてしまった。中途半端な日数で書き終えていいわけがない。

一ヶ月で書き終えてしまった。妙に長くなってしまったような気がした。

曇りの日に書き終えてしまった。終日晴れで夕陽が綺麗な日でなければ。

生活習慣が乱れた。そんな中で書いた文章が良いモノであるわけがない。

最後の一行で悩んでしまった。悩むということは駄目だということだ。

何より、俺の気持ちはこんなものではない。もつと重く、もつと深く、もつと濃く、もつと

しつこく、もつと醜く、もつと怨念じみていて、もつと理性的で、もつと本能的で、もつと綺

麗で、もつと澄んでいて、もつと歪んでいて、もつとまっすぐで——つまりはもつと複雑だ。

今回もどうせ、と考えて書き始めた文章が良いペースで進んだ。物語のテンポは文句のつけ

ようがなく、物語の中の彼女は会っていた時の彼女そのものだった。進行を調整するまでもな

く、十三日目になる明日には書き終わりそうで、睡眠時間は充分で明日は終日快晴で満月の日

だった。そして十二日目の今日も進行予定通りに書き終えた。

まさか、と思うとやや口角が上がった。はっとして、口もとを隠す。笑ったわけじゃない。

誰かに言い訳するように、そう思った。

夜。いつも通りの時間に布団を被った。仰向けになって暗闇を見る。すこしすると暗闇に目

が慣れて木目が見えるようになる。ぼうつとそれを見ながら、まばたきをしながら、眠気がや

って来るのを待つ。しかしなかなか眠気は訪れなかった。「……」起き上がり、洗い場で水を

飲む。それだけで、いい一日だと感じる。……これでは駄目だ。書き直そう。そう決めた。

